

高い山の源泉から村まで温泉のお湯を引くという念願の夢は、19 世紀末に現実のものとなりました。しかし、悲劇的な事件がその建設事業に暗雲をもたらしました。

1876 年 7 月、槍ヶ岳の標高 2100m に位置する温泉の源で 60 人の人々が湯引き事業を開始しました。2km に及ぶ竹製のパイプを通し終わった後、同年の 11 月に巨大な雪崩が作業場を襲いました。21 人が亡くなり、事業は 1 世紀以上滞りました。

約 50 年後、著名な登山家であり白馬の旅行業の創業者である松沢貞逸が、白馬鑓温泉の源泉近くに露天風呂付きの山小屋を開きました。以後、この温泉は日本有数の最も標高高くにある温泉リゾートとして知られ、登山家、温泉愛好家に人気の場所となりました。

さらに 60 年が経過した後、源泉から麓への引湯の新計画が立てられました。そして 1983 年、白馬鑓温泉直下南側の源泉の発掘が成功しました。数年後には全てのパイプが設置され、白馬八方尾根は一大温泉リゾートに姿を変えました。温泉から湯を引く、数多くのホテルや旅館、民宿などの宿泊施設、4 つの公共温泉施設が整備されました。ついに、地域の人々の 100 年越しの悲願が達成されたのです。

現在、小さな温泉街はアンチエイジング効果のある美肌の湯として人気となっています。pH 値 11 以上と強いアルカリ性の水質により、肌は大変滑らかで柔らかくなります。加えて、温泉のお湯は筋肉痛や神経痛、あざなどにも効果があるとされています。温泉に入るのに気が進まない場合は、村中にある無料の足湯を楽しむこともできます。